

# 日本の気象(1)

名前

1 次の文章は、地球規模の大気の流れについての説明である。( )に当てはまる言葉を書くか、○でかこみなさい。

- (1) 地球は球形をしているため、(赤道付近・極付近)の低緯度地域では、太陽から受け取るエネルギーが大きくて、空気がよく温められ、(赤道付近・極付近)の高緯度地域では、太陽から受け取るエネルギーが小さくて、空気があまり温められない。
- (2) 赤道付近では常に(上昇・下降)気流が発生し、極付近では常に(上昇・下降)気流が発生する。これにより地球規模の大気の流れが生じる。
- (3) 日本列島が位置している北半球の(低・中・高)緯度地域の上空では、西から東に向かって風が吹いている。この西寄りの風のことを(① 偏西風)という。
- (4) 赤道付近の(低・中・高)緯度地域と、極付近の(低・中・高)緯度地域では①とは逆向きの(東・西)寄りの風が吹いている。
- (5) 地球の半径は約(6400 640) Kmであり、これに対し、下降気流や上昇気流が発生し気象現象の起きる大気の厚さは赤道付近で約16Km、極付近で約8Kmととても薄い。

2 次の文章は、日本の気象に影響を与える要素についての説明である。( )に当てはまる言葉を書くか、○でかこみなさい。

- (1) 日本付近では低気圧や高気圧が(東から西・西から東)に移動することが多い。これは日本上空で吹く(① 季節風・偏西風)の影響である。
- (2) 日本の気象に影響を与える(気団・気圧)は、シベリア気団、オホーツク海気団、小笠原気団の三つである。
- (3) シベリア気団は、(春・夏・秋・冬)に日本の北西のシベリア地域で発達するシベリア高気圧の中で形成される(冷たく・暖かく)て(乾いた・湿った)気団である。
- (4) オホーツク海気団は、初夏と初秋に日本の北東のオホーツク海上で発達する、オホーツク海高気圧の中で形成される(冷たく・暖かく)て(乾いた・湿った)気団である。
- (5) 小笠原気団は、(春・夏・秋・冬)に日本の南の太平洋上で発達する太平洋高気圧(小笠原高気圧)の中で形成される(冷たく・暖かく)て(乾いた・湿った)気団である。
- (6) 陸の方が海よりも温まりやすく冷めやすいので、夏は陸上の気温が海上の気温より高く、陸上の気圧は海上の気圧よりも低くなる。このため、夏は(海から陸 陸から海)に向かって風が吹く。一方、冬は陸上の気圧が海上の気圧よりも高くなるため、(海から陸 陸から海)に向かって風が吹く。このように季節ごとにきまって吹く風を(② 季節風・偏西風)という。
- (7) 一日の中でも②と同じ仕組みで、昼は(海から陸 陸から海)に向かって(③ 海風・陸風)が吹き、夜は(海から陸 陸から海)に向かって(④ 海風・陸風)が吹く。③と④をあわせて(⑤ 海陸風)という。